

高度医療を支え先進の臨床検査を実践する

高度医療を支えるため幅広い臨床検査を実践しています。24時間365日の緊急検査体制や外来患者の診察前当日検査の実現、さらに超音波検査センターの開設など、診療サービスの向上に取り組んでいます。

業務体制

検体検査を統合する自動化検査(システム)部門、心電図など生体検査を行う生理検査部門、院内統合された超音波検査センター、感染症の原因を明らかにする微生物検査部門、そして生体材料の遺伝子検査部門など、柔軟な検査態勢を構築。夜勤・日勤体制の確立、治験業務の組織的対応など種々の診療ニーズに機動的な対応を行っています。

検査の質のレベルアップと人材育成

新人技師は約1カ月間の研修を経てから検査室に配属。その後も部内勉強会の開催、各種認定資格取得等を通じて臨床検査の質のレベルアップに取り組むとともに、次代の臨床検査をリードする人材の育成をめざしています。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

検査部では年間670万件以上の検体検査、6万件以上の生理検査および13万件を超える外来患者採血を行っています(平成21年度実績)。それぞれ増加傾向にありますが、検査項目の拡充と精度の向上を両立しつつ対応しています。

高度医療を支える検査部として

- ①チーム医療へ積極的に取り組んでいます。
- ②入院患者の糖尿病教室における検査指導、NSTやICTへの参加、さらには病棟での採痰指導など、診療科・各部門と連携した様々な臨床検査サービスの提供は検査部の重要な役割になっています。
- ③中央診療センターとして各診療科における先進的医療を支える立場にあり、EBウイルスやサイトメガロウイルスの遺伝子検査は、当院で実施されている移植医療において欠かせないものとなっています。
- ④新たに開設される超音波検査センターでは、最先端の超音波検査の中核として機能します。



高度な手術をより安全に提供する

入院されている患者さんに対する予定、緊急手術を安全にかつ効率よく行えるよう、最新の設備、器械を揃え、各診療科、関係部門と協力しながら手術室の運営を進めています。



診療体制

手術室16室を有し、年間6,000件の手術が行われています。H22年度には臓器移植法改訂により肝・肺移植が増加し、さらに脳死心臓移植実施・ロボット手術開始に向けてより専門性を高めています。また、手術室の環境を整え安全・感染対策に視点を置き、外科医・麻酔科医・看護師・臨床工学士・洗浄滅菌技能員・清掃員など多くの医療チームが一丸となって取り組んでいます。

運営方針

手術室では「患者さんに安全・安心して手術が受けられるよう」患者を中心とした医療チームを目指して体制を整えています。タイムアウトを実施するなど、安全管理への意識向上に努め、手術件数を増やす努力をしています。

診療実績

手術部内で行われる高度先進医療を含む各診療科の手術に貢献しています。麻酔記録の電子化による情報の共有化、手術部担当薬剤師の配置による薬剤管理の厳密化も進めています。

